



ISET-R NEWS LETTER

2/25/2013 VOL. 3, ISSUED BY ONDA LAB, UNIVERSITY OF TSUKUBA



IAEA PT JAPAN Meeting 開催!!!

@ 筑波大学 on 2012/10/11



IAEA

Proficiency Test JAPAN Meeting





フロンティアイニシアティブ (研究拠点構築型) H23-H25
ALL TSUKUBA NETWORK
For Culture, Water, Environment Study Faculty on Natural Ecosystem and Sustainability
環境・水・文化の連携による持続可能な筑波大学環境研究拠点



ISSET-R
福島原発事故により放出された
放射性核種の環境動態に関する学際的研究



筑波大学
University of Tsukuba



γ線スペクトロメトリーは、近年、装置のスペック改善や、様々な解析ソフトでの容易な操作の実現化により幅広く普及している。しかし、その手軽さゆえに十分な知識や注意がないまま試料測定が行われ、その値が独り歩きしている場合も少なくない。特に昨今の原発事故の影響により、これまで一般に扱われなかったような環境試料の測定や多機関での相互比較が必要な場合は細心の注意が必要である。

そこで、本年2月、筑波大学-IAEAの協力による、Proficiency Test (技能試験) を行い、日本を代表する21の機関が環境試料を用いた標準の測定値の相互比較を行った。

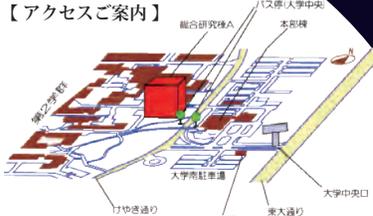
今回、IAEAの担当者および各機関の代表者が筑波大学に集まり、測定値の評価および改善するための技術指導を行う。

- LECTURER - **DR. SANDOR TARJAN**

Reference Materials Specialist,
Terrestrial Environment Laboratory
Seibersdorf Laboratory
International Atomic Energy Agency (IAEA)

IAEA 陸域環境研究所, サイバースドルフ研究所,
国際原子力機関 (IAEA)

【アクセスご案内】



- 秋葉原駅からつくばエクスプレス
→つくばエクスプレス(時刻表)、
→つくば駅出口、バスターミナル
→つくばセンターから「筑波大学中央」行きバス(10-15分)
- 東京駅から高速バス (高速バス乗り場2番バス停)
→東京駅八重洲南口から「つくばセンター」行きバス(約65分)
→「筑波大学」(終点・バス停「筑波大学中央」)と同じ位置)下車
- 大学構内案内
本専攻がある総合研究棟Aは筑波大学の北地区に当たり、第2学群の東側、本部棟の西側に位置します。バスでお越しの方は大学中央バス停で下車後、徒歩0分です。(下記の地図参照)。

Place:
筑波大学 総合研究棟 A110
Department of Integrative Environmental Sciences A-110

Date:
2012年10月11日(木) 14:00-16:00
Oct.11(Th), 2012 14:00-16:00

会議終了後、懇親会を予定しております。

more info: 筑波大学 生命環境系 教授 田田裕一 029-853-4226

2012年10月11日、筑波大学において Dr.Sandor TARJAN を迎え、Proficiency TEST(IAEA- 筑波大学の協力による 21 の日本国内放射能測定機関による環境物質の放射性核種測定技能試験プロジェクト：詳細は <http://fmwse.suiri.tsukuba.ac.jp/JapanPT.html>) の JAPAN Meeting が開催されました。

当日は、IAEA の担当者および各機関の代表者を中心に、学生や一般参加者を含めた多数の方々のご来場がありました。



非破壊で多核種の同時定量ができる γ 線スペクトロメトリーは、近年、装置のスペック改善やさまざまな解析ソフトの容易な操作の実現化により幅広く普及しています。

昨年の原発事故以来、これまで一般に扱われなかったような環境試料の測定や多機関での相互比較が急速に増加し、分析データの取り扱いには細心の注意が必要ですが、十分な知識や注意がないまま試料測定が行われ、その値が独り歩きしている場合も少なくありません。

そこで、本年2月、IAEA- 筑波大学の協力による「Proficiency Test (技能試験)」を行い、日本を代表する21の機関が環境試料を用いたスタンダードの測定値の相互比較を行いました。本ミーティングでは、上記測定値の比較に関して、TARJAN氏より測定値の評価および改善をするための技術指導を頂きました。

講演後の議論では、来場者からさまざまな意見や質問がされ、時間の許す限り TARJAN 氏に熱心に対応いただきました。

講演を通し、現在我々が行っている測定方法や調査研究の方法は、世界の基準と同等の成果を発揮しており、日本の研究機関が世界でも通用する調査研究を進めていることが明らかとなりました。

ミーティングの最後には、次回の PT ミーティングに向けての話し合いも行われました。今後のさらなる健闘と発展への期待が高まる大変有意義なものとなりました。